

ちばの森遊び体験(千葉県からの受託行事)

ワクワクたんけん秋の森

山口正明 (船橋市)

日 時：2020年11月28日（土）10:00～12:00 天気：晴れ、やや風

場 所：大町教育の森（市川市）

参加者：一般 31名（大人 14名、子ども 17名）、指導員 8名、

「大町教育の森の会」5名協力

担当指導員：川瀬、小坂、渋谷、田島、長谷川、三嶋、米澤、山口

事前の天気予報で天気が微妙で指導員一同やきもきしましたが、皆の願いが通じたのか、晴れ！となり、大町教育の森で開催することができました。この企画は、千葉県（農林水産部森林課）からの県内4団体への呼び掛けに協議会として応募し、実施することになったもの。「ちばの森遊び体験」と称し、親子での森遊び体験を通して森林の重要性を体感してもらうというのが県の目的でした。

コロナ対策ということで、朝、受付で、参加者の体温（非接触型体温計使用）と体調（チェックシート記入）を確認、手指のアルコール消毒をした上で、全員にヘルメット・虫眼鏡・資料などを配布。その後、イベントの全体説明をし、その中で、この森を日頃からボランティア管理している米澤さんから森の紹介。

その後、班（5班）に分かれて、いよいよワクワクたんけん、森歩きです。1班 2～3家族に1人指導員が随いて、ルートを分けて出発。参加者には、落ち葉・木の実・虫（卵嚢）など、気に入ったものを探してもらいながら、指導員から適宜、解説も加えるというやり方で進めました。初めからテンションが高い子がいる一方で、あまり関心がなさそうな子もいました。ところが、ガガイモの種を付けた綿毛を見てから、急に興味津々に変貌（こういうのが嬉しい！）。コブシの冬芽の毛皮のコートも人気です。



ガガイモの綿毛を飛ばしてみよう



丸太の中にカマキリの卵嚢がありますね

1時間ほど森歩きをした後、森の中で集めたものを、家族毎に、市松模様の布と黒いフェルト布に、それぞれのセンスで自由に置いてもらいました。ほかの家族の「作品」をお互いに見学した後、各家族一推しのものを持ち寄って、大きな黒い布に置いてもらいました。森の中にはさまざまな色や形の違う自然のものがあることに、皆が感心していました。

この後、残った時間で、色々なドングリでコマを作って回し、子どもたちはもちろん、親たちも童心にかえって遊びました。最後に、県の担当の方から森の働きの説明等をしてお開きとしました。「大町教育の森の会」の皆さんには、車の誘導、大量のヘルメットの準備、会場整備など、たいへんお世話になりました。



以下、参加者の主な感想です。

◇子どもたちの主な感想

- ・「森の中の道がくねくね曲がっていておもしろかった。」
- ・「変わった形の虫を見つけられた。」
- ・「植物の生きる作戦がわかった。(鳥に食べてもらうように赤い実になっているなど。)」
- ・「モグラの穴がおもしろかった。」

◇大人（親）の主な感想

- ・「こんな良い森があるのを知らなかった。」
- ・「別の季節の時にまた来たい。」
- ・「いろいろな状態にすることでいろいろな生き物が暮らせることが分かった。」

今回のイベントに関する県の依頼は、晴天時は森で雨天時は室内で実施というもので、会場、プログラム等、ダブルの準備をすることになりました。参加者募集チラシの作成も必要でした。一方でコロナ禍の下、県の呼び掛けから開催まで3ヶ月間弱となりタイトなスケジュールでした。

これに対し、担当者間のオンライン会議（4回）、現地下見（4回）、チラシ作成、備品準備等、指導員スタッフの皆さんが集中的に対応してくれました（皆さん、正直、結構疲れましたネ）。

募集の結果、親子10組に対し110組もの申込があり、若いパパやママがこうしたイベントを切望していることがわかりました。申込み受付をメール先着順としましたが、受付の自動応答や抽選方式にすることなど、改善余地を感じました。



募集チラシ(渋谷・小坂ご両名の力作)